

Mixed Methods Research

その意義と可能性

近年、Mixed Methods Research への関心が高まっている。欧米を中心に、Mixed Methods Research を用いた研究が活況を呈しており、今後、わが国の看護研究においても、本方法の役割が大きくなっていくことも考えられる。

これまでの間、質的研究と量的研究とは対立するものとして捉えられがちであったが、両者を統合しようとする傾向が高まっていると思われる。質のデータと量のデータを用いた研究自体は、以前からも行なわれてきているが、意義ある研究成果を導くためには、質的量的双方の研究を積み重ねていくことは不可欠であるだろう。では、Mixed Methods Research の新しさはどこにあるのか。これまで行なってきた方法とどこが異なり、どのような意義や課題をもち、看護研究に寄与していくのか。看護研究のこれからにおいて、Mixed Methods Research の位置づけを考えていく必要があるだろう。

看護研究における新たな潮流として、本特集ではまず、方法論や実践の前におさえておくべき Mixed Methods Research の歴史的、哲学的背景とともに、米国での研究の紹介を通じて、これからの可能性を考えていくこととしたい。

『看護研究』編集室